



請願 31 第 6 号

令和元年 8 月 27 日

つくば市議会議長 神谷 大蔵様

市内の聴覚障害児への教育環境改善に関する請願書

請願者 つくば市

つくみみ会（つくば市難聴児の親の会）

会長

紹介議員

し中真乃

請願趣旨

聴覚障害児は、その重症度にかかわらず、発達初期から耳(聴覚)からの情報入力 of 制約があることにより、音声の主たるコミュニケーション手段とする社会生活において多くの困難とハンディキャップを負います。聴覚障害の早期発見や援助技術は進歩してきていますが、補聴器や人工内耳などによって障害されている聴覚を補助したとしても、日本語リテラシー（読み・書き）の発達には特徴的な未熟さや課題が残ることがわかっています。置かれている教育環境にいかにか適切かつ必要な工夫が施されるかが、聴覚障害児の良好な発達を左右する大きな課題となっています。たとえ軽度の聴覚障害であったとしても、個人の努力だけでは就学や就労を含む社会参加の制約や生活の質(QOL)の低下が生じてしまいます。特に、聴覚障害は、対人交流や情報収集スキル、ひいては人格形成にも大きな影響を与える特徴をもつ障害であり、より良い予後を得る為には、少しでも早くよりよい聞こえの環境を整え、多様性の担保された人生経験を積んでいくことが重要になります。

現在、重度の聴覚障害児には、人工内耳を装用するか、補聴器を装用するかの二つの選択肢があります。補聴器の場合、音を振動・増幅させる機能に障害がある場合（伝音性難聴）に最も効果を上げますが、音を電気信号に変えて神経や脳に伝える部分に障害がある場合（感音性難聴）、人工内耳を装用するしか聴覚を向上させうる手段はありません。

人工内耳の手術を乳幼児期の早期に行うことによって、手話に頼った狭い人間関係ではない一般社会生活に開かれた人生設計が可能となります。手術は、1994 年に健康保険が適応され、1998 年には小児の適応基準が2歳以上となり、2014 年2月には生後12か月以上とさらに適用拡大されました。これにより、現在では年間1000件以上の手術が行われるまでになり、その約5割が10歳未満の小児で、未就学児童はその中の半数ほどにまで増えています。今後も聴覚障害者のなかで人工内耳を装用する人の比率は増加の一途をたどると考えられます。

しかし、人工内耳の装用かかる経費は、手術をすれば終わりというわけにはいきません。体外装置は成長に合わせ買い替えなければならず（補足説明資料1を参照）、電子機器のため汗や雨、埃に弱く、幼児がのびのびと日常の中で遊んだ場合には容易に壊れ、そのたびに買い直さねばならず、経済的負担はかなりのものになっています。

現在、補聴器については購入費用が助成され、耐用年数により再購入の助成も認められています。しかし人工内耳は、補聴器と同様かそれ以上の機能が期待できるものでありながら、修理や再購入の費用は自己負担することになっています。小・中学校に通う子どもたちにとっては、新しい機種により良い聞こえが得られることによって、健聴児と同様の言語発達や学力向上、あるいは健常児と同様の集団交流の機会などを得ることが見込めますが、装用手術に保健が適用されるだけでは、装用児の家族の経済的負担は十分に軽減されたとはいえません。

一方、軽度・中等度の聴覚障害児には、補聴器を装用するという対処しか取り得る選択肢が用意されていません。補聴器については購入を助成する制度（軽度・中等度難聴児補聴器購入補助制度）があり、人工内耳に比べれば経済的負担は少ないとは言えるものの、現状では補聴器購入とイヤーマールド（耳型）購入の2つのみが助成対象となっているに過ぎません。

以上のように、聴覚障害児を持つ家庭は、その程度に関わらず、聴覚を補助する装具を購入するだけでかなりの経済的負担を余儀なくされている現状があります。しかしながら、補聴器も人工内耳も、静寂な環境の中での1対1での会話に対しては大きな機能を発揮しますが、教育現場のような騒がしい1対多の議論の場や雑多な環境下においてはただ装用しているだけでは十分な効果を発揮しない特徴を持っているのです。そこで必要不可欠となるのが、送信機（マイク）と受信機を備えた「補聴援助システム」です。

補聴援助システムは、話し手が送信機（マイク）を持って話すと、受信機を付けた補聴器あるいは人工内耳にダイレクトに音声が入るシステムになっています。学校などの教育環境において難聴児が集団指示や学級組織の中での教員の教示を聞き漏らさないための唯一かつ有効な手立てとなるため、補聴器や人工内耳と共に導入することが必要不可欠となります。

ところが、補聴援助システムは、個人が負担するとなると購入が難しいほど高額で（補足説明資料2を参照）、軽・中等度難聴児の家族にはシステムを購入することを諦めている人が少なくありません。身体障害者手帳を交付される重度聴覚障害児に対しては特定補装具としての申請が通れば自己負担一割での購入が可能となっていますが、軽度・中等度聴覚障害児にとっても、補聴器や人工内耳がもつ機能的限界は共通しているので、よりよい教育環境を得るためには補聴援助システムの購入が促進されることが必要です。

教育現場では教師と生徒との間の距離や周囲の雑音があるため、聴覚障害児は補聴器や人工内耳だけでは十分な聴取ができず、補聴援助システムの併用は不可欠です。以前より、聾学校などでは、赤外線式やFM式（アナログ式）補聴援助システムが使用されてきましたが、

チャンネル干渉が生じやすい欠点がありました。最近使用されるようになったデジタル無線方式の補聴援助システムは、デジタル変調方式により音質が向上し、受信機と送信機間のペアリングによりチャンネル干渉が防止できる利点があります。デジタル無線方式の補聴援助システムが重症度に関係なく広く聴覚障害児に用いられるようになった上で、難聴学級に送信機（マイク）が1つ余分にあると、例えば教員と他の生徒、あるいは支援員などの3者での会話をより正確に聞き取ることができるようになり、聴覚障害児に多いディスカッション場面への参画機会を増やすことができます。

平成26年1月に批准された障害者権利条約では、第2条で合理的配慮が定められており、さらに、平成23年に改正された障害者基本法第24条では、障害者の経済的負担の軽減について言及されています。日本で唯一の視聴覚障害者を対象とした筑波技術大学があり、「世界の明日が見える町」「誰一人取り残さない」と謳うつくば市こそが、先陣を切って、是非とも聴覚障害児に対するよりバリアフリーな施策を具体的に講じていただきたく、お願いいたします。

請願項目

前項により、私たちは、この度つくば市に以下の三点を請願いたします。

- ①重度の聴覚障害児に対する人工内耳の装着とメンテナンスに要する経済的負担軽減のための助成制度の設立
- ②軽度・中等度難聴児補聴器購入補助制度にデジタル無線方式の補聴援助システム購入（タッチスクリーンマイク1台、受信機2台、オーディオチューン2台）助成を含める方向での拡充
- ③難聴学級のある竹園東小学校および竹園中学校にデジタル無線方式の補聴援助システム送信機（パスアラウンドマイク）を最低でも各学年に1つ設置、体育館などの広い場所で利用する補聴援助システム送信機（デジマスター7000）の設置、補聴援助システム送信機の充電器（チャージングラック）の設置

補足説明資料

- 1 人工内耳は蝸牛に電氣的な刺激を与え、聴覚を獲得する医療機器で、体外装置（スピーチプロセッサ）と手術によって頭部に埋め込む体内機（インプラント）から成る。手術と機器購入自体は医療保険と自立支援医療制度が適用されるため1万円(両耳)ほどだが、その修理や再購入のための部品費用は全額自己負担となっている。

部品名	価格/1 個 (円)	用途	買替 時期
Nucleus7 スピーチプロセッサ（本体）	986,890	音声処理を行う部分	成長 毎 故障 破損 紛失
イヤモールド（耳型）	9,000	本体を耳に固定する	
充電式電池パック	17,280	本体に接続する充電式電池	
充電器	16,200	電池を充電する	
充電器用電源プラグ	2,160	充電器に接続する電源アダプタ	
電池ホルダー	15,120	電池カバーを取り付けて使用。空気 亜鉛電池 2 個使用	
電池カバー	5,400	電池ホルダーに取り付けるカバー	
マイクロホンカバー	3,456	マイクロホンを埃や湿気から保護する ためのカバー	3ヶ月
イヤフック	2,160	3 個セット本体を耳に固定する	故障 破損 紛失
安全コード	1,728	落下防止のためのコード 紛失、故障	
アクアプラススリーブ	6,480	本体と充電器を入れる防水カバー	
高出力電池パワーワン水銀 0 使用	594	1 パック 6 個入 1 度に 2 個使用し、 おおよそ 1～2 日で交換	
ドライ&ストア	14,040	本体、送信コイルの湿気を取り除く までの乾燥保管システム	
ドライブリック	972	ドライ&ストア専用乾燥剤 1 パック 3 個入	2ヶ月 毎

日本コクレア株式会社

2 デジタル無線方式の補聴援助システムの購入経費は、両耳に装用する場合の概算で322,000 円。その内訳は、受信機代として 92,000 円（／1 台＝片耳分）、送信機（タッチスクリーンマイク）代として 128,000 円、オーディオシュー（接続アダプター）代として 5000 円（／1 個＝片耳分）。

部品名	価格 (円/1 個)	用途
○ タッチスクリーンマイク	128,000	送信機 操作性抜群のマイク
パスアラウンドマイク	78,000	送信機 タッチスクリーンマイクの子機として使用。コンパクトで持ちやすい。
○ ロジャー受信機	92,000	個人所有の補聴器に接続し使用
○ オーディオシュー	5,000	受信機を接続するためのアダプタ
デジマスター7000	190,000	受信機。線音源スピーカー 有効室内面積 1 台 150 m ²
ウォールパイロット	40,000	各部屋の出入口に設置する事で、受信機を自動的にその部屋で使用するワイヤレスマイクのネットワークに接続できる。
チャージングラック	12,000	最大 4 台の送信機を同時に充電出来る

ソノヴァ・ジャパン株式会社